

呉 窮

WU, Qiong

「創世記」の再創作

Adaptation of "Genesis"



バベルのマスターズ / Babel's masters
リトグラフ / 洋紙(ハーネミュレ) / Lithograph on Hahnemuhle / 140 × 100 cm

私の研究テーマは「創世記」に対する改編である。「創世記」をテーマとする理由は、見る人との共感を引き起こすためだけでなく、一つ一つの物語によってパラレルワールドのような世界を作りたいからである。もちろん、私の作品は単に宗教的なものではなく、自身を含めた現代人の感情や考えに基づき、「創世記」のあらすじを改編した作品である。

例えば、「バベルのマスターズ」で表現したいのは、人間の死や文明の滅亡に対する無力なので、崩れているバベル

のタワーではなく、古代中アジアとエジプトのファラオの陵墓を参考し、タワーの内部にマスターズの最後の様子を描いた。「ノアの舟」では、自分の利益のために別の動物を絶滅させた人間の行為を訴えるために、元々の物語を完全に改編した。利己的なノアが神様の命令に従わず、ただ自分が乗れる小さな舟を作った。だが、その船が向かうのは新しい世界ではなく、地獄への道である。



ノアの舟 / Noah's boat
リトグラフ / 洋紙(ハーネミュレ) / Lithograph on Hahnemuhle / 100 × 70 cm

大森 みつき

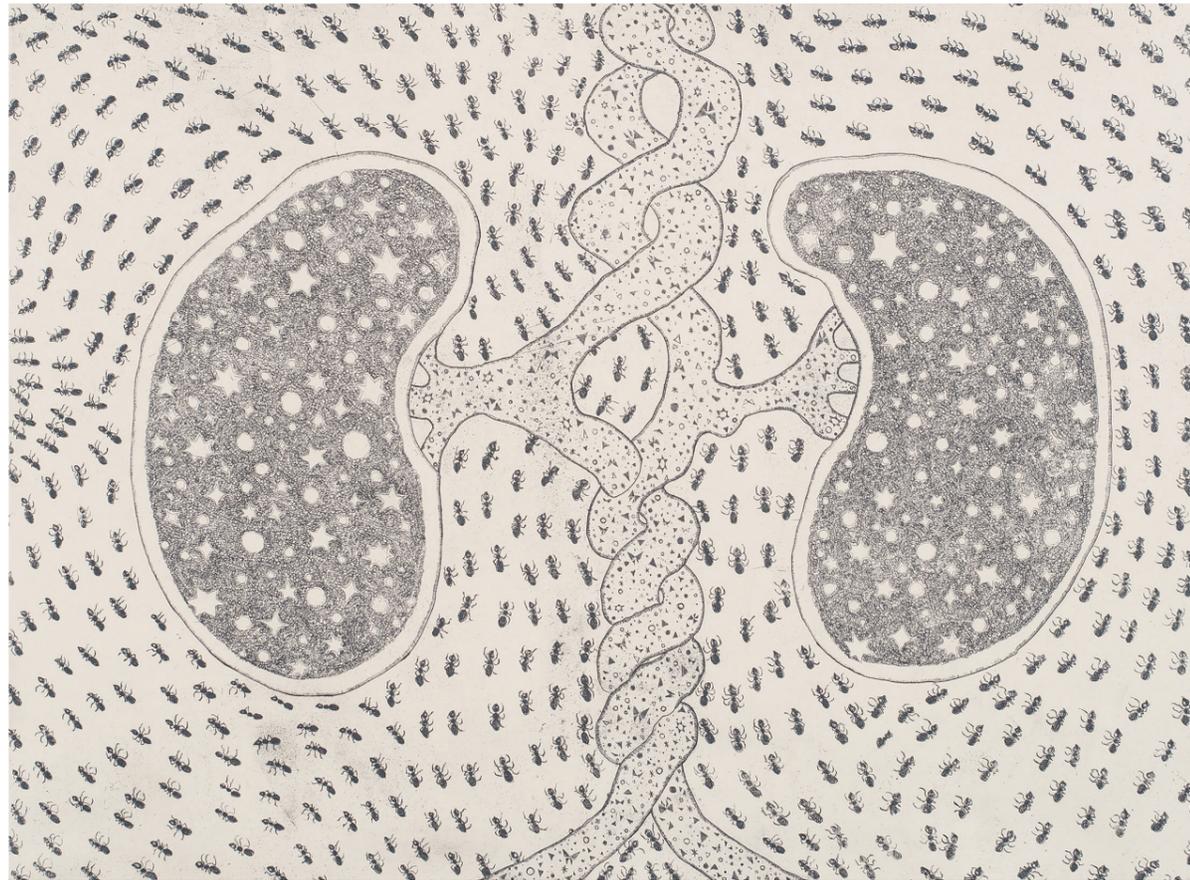
OMORI, Mitsuki

「生」と「曲線」を巡って

蟻と私

Moving around "Life" and "Curves"

Ants and Me



いびつなものを正す / Repairing distortion

エッチング / 洋紙 (ハーネミュール) / Etching on paper / 45 × 60 cm

私は蟻を破壊や侵蝕の象徴として見ている。祖母の心臓の病気がきっかけでそう思うようになった。心や体が蝕まれるのは苦しいことである。しかし、これらの負の感情から新しいものが生み出された。

歪んだものや間違っていると思うものを壊す事は勇気がいる事だ。壊した先に新しいものが生まれるのである。ポロポ

ロになった後に新しいものが生まれる事が繰り返されて歴史が築かれ人類は発展した。悲しみと喜びがどちらも入り混じっている。

その度に人々は悩み苦しむ疲れてきた。しかし人類が正しい方向に進むには大事な事なのである。たくさん過ちを犯しながら道を修正して未来に進むのが生物なのである。



考えすぎでめまいを起こす / Dizziness from too much thinking

エッチング / 洋紙 (ハーネミュール) / Etching on paper / 65 × 60 cm

川合 翔子

KAWAI, Shoko

動物を通じた人間の表現

Human expression through animals



Magic of killing oneself #11

リトグラフ / 洋紙 (いづみ) / Lithograph on paper / 61 × 86 cm

私が動物を描くのは純粋にその動物が好き、その動物が持つ魅力表現したいからという、極めてシンプルな理由である。一方で、私は自分自身の思想や現代社会に対する疑問を、絵画表現を通して訴えかけたいという思いを持っている。私は動物に人間の性質を投影することで、動物の持つ魅力と自分の思想を同時に画面に表現している。

修了制作は狐が持つ変身能力と、複数の生物の部位からなる架空生物から着想を得て制作した。動物を組み合わせる

ことで、自分自身の姿を歪め他者へと変身していく様子を表現している。居場所を失うことを恐れた狐は自分の姿を変化させて他者と同化しようとするが、その結果本来の自己を喪失し、どちらにもなり切れない中途半端な怪物と化してしまうのである。ここでは他者の思想や価値観に埋没し、本来自分が大切にしていた思想や価値観を見失ってしまう様子を、変身能力のある狐に投影している。



Magic of killing oneself #10

リトグラフ / 洋紙 (いづみ) / Lithograph on paper / 86 × 61 cm

古賀 玄義

KOGA, Harumichi

シェーカー、透視図法、そしていくつかの幾何学的性質

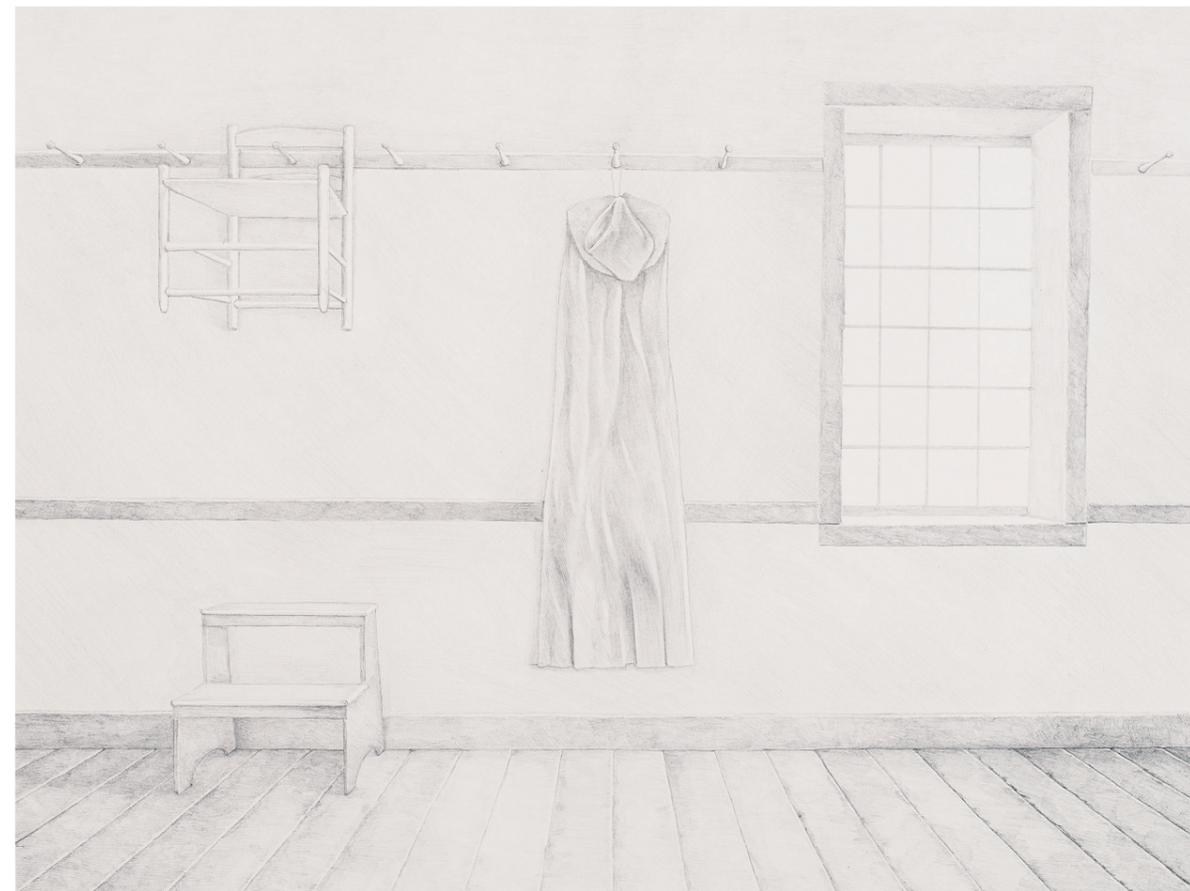
Shaker, perspective, and several properties of wholeness



祈りの名残 / The remain of prayer
リトグラフ / 洋紙 (いづみ) / Lithograph on paper
65 × 85 cm

「祈りの名残」では、机、椅子、丸テーブルが描かれており、椅子は壁面上のペグレールに吊るされている。これらのモチーフのデザイン、そして椅子の特徴的な設置法は、シェーカー教徒の共同体で実生活に組み込まれていたものである。画面は厳密な透視図法に則って製図的に組み立てられており、家具の寸法、及びそれらに対する距離は想定空間上で

数値的に設定されている。「祈りの姿」は同様のモチーフからなる作品だが、画面上の透視図法は想定空間上の数値に基づくものではなく、画面上の配置から逆算されたものである。これらの作品では、実空間、平面空間における実体の配置から、人がどのように美しさを感じ取るのかを検証している。



祈りの姿 / The presence of prayer
リトグラフ / 洋紙 (いづみ) / Lithograph on paper
60 × 80 cm

瓶子 愛理

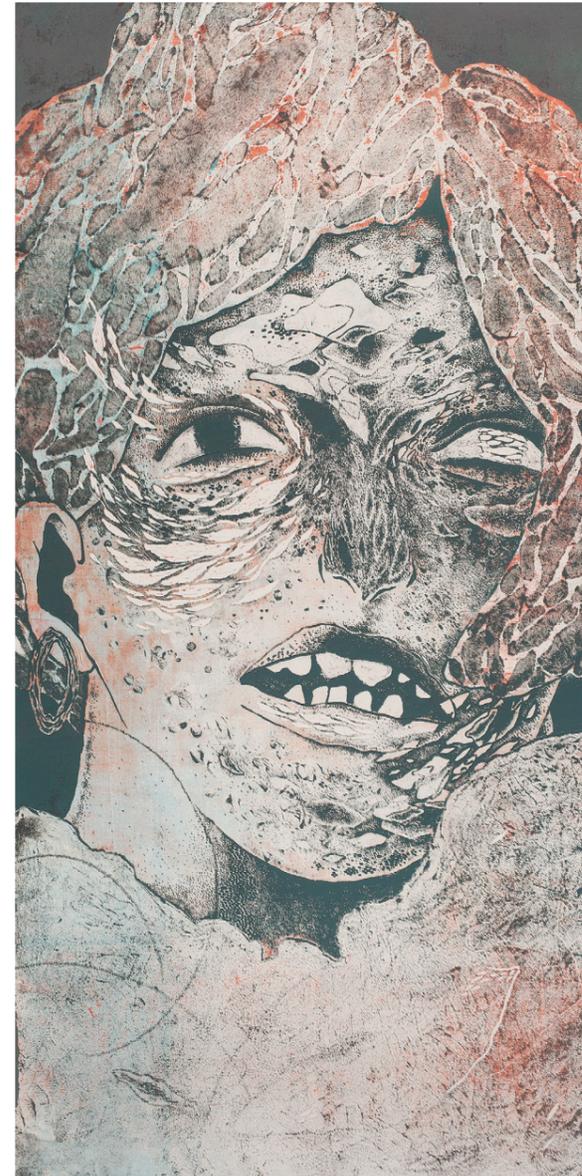
HEISHI, Airi

異なる版素材を重ねて刷ることによって生じるカラー作品の表現の可能性

Possibilities of color prints made through the overlapping of different plate materials



視線 - 3 / Look - 3
木版リトグラフ / 洋紙 (ニューブレダン) / Woodcut lithograph on paper
90 × 73 cm



Big face - 3
木版リトグラフ / 洋紙 (かきた) / Woodcut lithograph on paper
90 × 73 cm

何故、ベニヤの木版リトグラフと、アルミ版を併用するに至ったのか説明いたします。それは木版リトグラフの彫りが行え、アルミ版と違いベニヤを使用しているため、水彩も使うことができる、という部分に強い魅力を感じたからです。特に、彫りの作業ができるということは、私の作品に強く影響を与えると感じました。私は、人の感情が、顔からシミとなってゆらゆらと浮かび上がってくるというコンセプトの元、制作を行っています。そして、彫りの表現が大切なシミの部分の幅を広げてくれると感じました。しかしながら木版リトグラフはダーマトグラフでの描画に適していません。ソリッドマーカーと比べ、ダーマトグラフは弱い描画材なので、刷りの作業の際に描画部分が剥がれてしまう、というトラブルが多くあるからです。私は今までアルミ版を使って制作してきたので、ダーマトグラフの表現が必要だと感じました。そして、アルミ版と木版リトグラフを併用させようという考えに至りました。私の作品に多く出てくるシミは、制作において最も大切にしている部分です。人は何も考えていない、という瞬間がありません。無表情でも、ポーッとしていても、常に頭の中で無意識のうちに何かを考えています。そのそれぞれの想いがシミとなり、顔からユラユラとにじみ出る人々を描いています。このシミを描いていくきっかけとなったのは、アルビノの患者の方々の写真を見た、ということからでした。彼らは私たちと比べて肌のメラニンが少ないが故に、肌が非常に白いのです。メラニンが少ない、ということは紫外線にとっても弱いということになり、顔には多くのシミが存在します。きっと、彼らはこのシミに悩んでいるのでしょう。しかし初めてそのたくさんの顔のシミを見たとき、私にはそれらがきわめて美しいものだと感じたのでした。星や、花びら、水面などを連想させるとも感じました。是非このシミを自分の作品に取り入れたいと考え、今に至ります。

松尾 香織

MATSUO, Kaori

魚の絵画について

About painting fish



祝宴の海
Ocean feasts
エッチング、手彩色 / 洋紙 (いづみ)
Etching, water color on paper
60.5 × 100 cm

私は、エッチング、シュガーアクアチントを中心にあらゆる技法を併用する。多様な魚の中でも、モチーフとなるものの種に合わせた表現方法をそれぞれにとっているからである。

自身の心に深く根ざす海の魚介をモチーフに、人に近し

い存在であるよう願いを込めて擬態させる。魚介類は動物としても食料としても、魅力的なものである。その魅力に触れ、沸き起こるイメージや伝えたい想いをもとに、絵画を制作する。私の作品は魚の生態を示すのではなく、魚が思想を持っていることを表現している。



花 - 魴鱈 / Flower - searobin
エッチング、アクアチント、手彩色 / 洋紙 (いづみ) / Etching, aquatint and water color on paper
75 × 50 cm

横田 智美

YOKOTA, Tomomi

銅版画の技法と夜の黒の表現

Copperplate printing technique and representation of black at night



雨の街No.7 / Town of rain No.7
エッチング、アクアチント / 洋紙 (かきた) / Etching and aquatint on paper
90 × 80 cm

人を描かずに人を表現するということを切り口に制作をしている。人の存在はどのような時に感じるのだろうか。

会話をしている時、姿が見える時、声が聞こえる時、人それぞれだと思うがどれも、目視した、声を聞いたなど人を構成する何かに触れた時だと思う。

東京には1362万人もの方が住んでおり、屋間外に出ると嫌でも人の姿を見る。しかしその大半は気づかずの他人だ。姿形が目に入らなければ、他人という存在は途端に影を薄く

し意識されなくなるように思う。

道に唾を吐く人やゴミを捨てる人がいる。その道を使う人が自分だけでは無いと気づくことができれば、そんな事はしないのでは無いだろうか。

自分の知り合いでない人も、同じ世界に自分と同じように暮らしているということをもっと認識できれば、もっと良い世界になるかもしれない。



雨の街No.13 / Town of rain No.13
エッチング、アクアチント / 洋紙 (かきた) / Etching and aquatint on paper
90 × 75 cm